

ワルデンシュトレームマクログロブリン血症に関する多施設共同後方視的調査研究

・はじめに

ワルデンシュトレームマクログロブリン血症はIgM型M蛋白と骨髄浸潤を特徴とする比較的まれなリンパ増殖性疾患です。わが国ではこれまでに多数例での解析が行われておらず、人種差による病態や欧米との治療法および予後の違いも不明です。

・研究の目的

本疫学観察研究では、我が国における治療内容とその成績、欧米における患者プロファイル・治療内容・予後との比較検討、我が国における予後因子の検証を目的とします。

・研究の対象

2001年1月1日から2015年12月31日までにワルデンシュトレームマクログロブリン血症と診断された症例を対象とします。

・研究の方法

本研究は当院に受診歴のある症例のデータを診療録より抽出し調査を行います。この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

・プライバシーの保護について

診療録より得られたデータは匿名化されます。個人の名前、情報が第三者に漏洩することはありません。本研究の学会発表、論文報告においても個人を特定できる情報は一切公開されません。

・研究機関

日本赤十字社医療センター 血液内科 鈴木憲史 宮崎寛至
〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 電話 03-3400-1311(代表)

全体研究責任医師 群馬大学大学院保健学研究科 生体情報検査科学講座 村上 博和
〒371-8514 群馬県前橋市昭和町 3-39-22

TEL : 027-220-8973